

東洋史例会〈よみがえる四川文明—三星堆と金沙遺跡の秘宝—〉展見学会

東洋史例会として、東京都美術館企画展「よみがえる四川文明—三星堆と金沙遺跡の秘宝—」の見学会を企画いたしました。皆様ふるってご参加ください。

日時:9月18日(土) 午後2時集合

集合場所:東京都美術館 入口

JR 上野駅(下車公園口出口)徒歩10分

営団地下鉄銀座線、日比谷線上野駅下車 徒歩15分

京成電鉄上野駅下車 徒歩15分

費用:一般・・・1300円(1000円)

大学生・・・1100円(800円) ※()内は団体料金

*費用の一部を史学会で負担いたします。

四川省は、近年考古学会の注目を集めています。歴史的には巴蜀(はしよく)と呼ばれ、巴は省東部と重慶直轄市を、蜀は省西部、その中心は成都を指します。この地では、1986年に三星堆遺跡、2000年に船棺遺跡、2001年に金沙遺跡と次々に重要な発見がありました。これにより、黄河文明や長江文明に匹敵する3000年から2300年以上前の古代文明の存在が、明らかになってきました。

そこで、四川の民が生み出したこの文明を「四川文明」と名付け、焦点を当てるようになりました。この展覧会では、現在もめざましい考古学的発掘が続く三星堆、金沙、船棺の各遺跡の出土文物から、青銅器、金器、玉器など国宝級の文物や、世界初公開となる文物を含めた全122点を展示しています。これまで私たちが考えていた「中国文明」のイメージとは、まったく異なる「四川文明」の世界を、ぜひ御覧いただければと思います。